

自主防災組織活動状況現地調査を実施しました

- 令和5年10月29日に自主防災組織の設立支援等モデル地区事業のモデル地区である仁賀地域自主防災会、成美コミュニティ推進協議会、あたご地域自主防災会の活動状況現地調査を行いました。
- 高梁市地域防災力向上委員会の委員長と副委員長が現地に入り、防災講話、活動状況報告、防災ワークショップ、意見交換を行いました。



防災ワークショップ



防災講話



活動状況報告

1. 避難訓練から見た課題

(1) 自主防災組織としての役割分担への理解

- ・ 救助要請に対して自主防災組織としてどう対応したら良いか
- ・ どこでどのような災害にあうかわからない。災害が起きたその時、自分がどのように行動すれば良いかわからない
- ・ 班長の役割は何をしたら良いか
- ・ 本部では各部落のことがわからない
- ・ 実際に共助を行えるほど、人が集まるのか
- ・ もし、抜き打ちで訓練を行うとどこまで出来るのか
- ・ 組織の班ごとに話し合いをしてみると良いのでは
- ・ 日頃から排水溝等の整備が必要

(2) 災害時要配慮者・避難行動要支援者に対する対応

- ・ 支援が必要な人の避難をどのようにするか実践してみると良いと思う
- ・ 車の運転ができない人や、体の不自由な人等の運搬
- ・ 特に夜間の避難はできない

(3) 避難（自宅避難）について

- ・ 足の不自由な高齢者が居るため、自宅待機します。そのほうが安心です
- ・ 避難所に移動するより、自宅に居たほうが安全かもしれない
- ・ 実際には避難場所に行けないと感じていたので、自宅待機で電話対応をした
- ・ 自宅待機だと、様子がわからなかった
- ・ 避難場所は遠いと思った

(4) 避難訓練方法について

- ・ 地域的に災害経験がないので、防災意識が低い
- ・ 実際に避難までしなくて良いと思ってしまう
- ・ 次はコミュニティまで避難
- ・ 避難経路の誘導
- ・ できれば地区の集会所にでも集まったほうが良いと思う
- ・ 地区全体の避難訓練をしたほうが良い
- ・ 地域局単位での訓練

(5) ペットについて

- ・ はなしてやる
- ・ 連れていく

(6)連絡体制について

- ・連絡がつかない人、町内会があった
- ・ほかの人に連絡が取れるようにしたい
- ・町内会長が不在時の連絡体制は？
- ・本部へ連絡が繋がらなかった
- ・連絡がつ取れず、安否がわからない場合の対応は？
- ・休日昼間の訓練だったが、夜だと全然状況が違う
- ・平日の連絡方法は？
- ・仕事中に災害が起きた場合、避難が難しく連絡もつきにくい
- ・連絡網があったから、スムーズに避難できた
- ・近くの親戚へ避難することを連絡する
- ・役員をしていると、役員さんとのやり取りがあり、町内から連絡があってもスムーズに動けない
- ・平時の訓練なのに連絡がすぐに取れなかった。災害時はもっと無理なのでは？

(7)情報について

- ・町内ごとに名簿があったほうが良い
- ・町内会の各戸の人数、名簿を集会所に貼っておく
- ・ケーブルテレビとラジオが頼りになってくる（道路事情等）

避難訓練から見えた課題

役割・分担の理解

- ・もし、抜き打ちで訓練をしたらどこまで出来るか？
- ・避難ができない人もいる
- ・特に夜間の避難は無理
- ・車の運転ができない人や、体の不自由な人の運搬
- ・日頃から排水溝等の整備

自宅避難

- ・地域的に災害経験がないので、防災意識が低い
- ・実際に避難までしなくて良いと思ってしまう

情報・連絡

- ・連絡網があるからスムーズに避難できた
- ・役員をしていると、役員さんから電話があつて、町内会さんから電話がかかつてもスムーズに動けない
- ・近くの親戚へ避難することを連絡する
- ・平日の連絡方法
- ・仕事中に災害があつたら、避難が難しく、連絡がつきにくい
- ・各戸への連絡が取れない人がいる

避難訓練から見えた課題

役割・分担の理解

- ・その時、自分がどのような行動すれば良いかわからない
- ・救助要請への対応を自主防災としてどうしたら良いのかわからない

自宅避難

- ・足の悪い高齢者がいるため、自宅待機します。そのほうが安心です。
- ・自宅待機で電話対応をした。実際には避難場所には行けないと感じていた。
- ・自宅待機だったので、様子がわからなかった。避難場所は遠いと思った。

情報・連絡

- ・ケーブルテレビとラジオが頼りになってくる。(道路事情等)
- ・個人との連絡が取れないことが多い
- ・連絡が取れず、安否確認ができない場合はどうしたら良いか？

避難訓練から見えた課題

役割・分担の理解

- ・本部では各部落のことがわからな
い
- ・実際に共助出来るほど、人が居る
のか
- ・身体不自由者等をどうするのか
- ・できれば地区の集会所にでも集
まったほうが良いと思う

避難方法

- ・避難所に移動するより、自宅に居
たほうが安全かも
- ・避難経路の誘導
- ・組織の班ごとの話し合いをしても
良いのでは
- ・次の段階で、地区全体の避難訓練
をしたほうが良い
- ・地域局単位での訓練

情報・連絡

- ・昼の訓練だったが、夜だと全然状
況が違う
- ・平時なのに連絡がすぐに取りれな
かった。災害時はもっと無理なので
は？
- ・連絡の手段
- ・連絡がつかない場合

避難訓練から見えた課題

役割・分担の理解

- ・支援が必要な人の避難をどのようにするか実践してみると良いと思っ
- た
- ・班長の役割はどうしたら良いか
- ・どこでどのような災害にあうかわからない

自宅避難

- ・次はコミュニティまで避難

ベットはどうすれば良いか

- ・はなしてやる
- ・連れていく

情報・連絡

- ・連絡が見つからない町内会があった
- ・ほかの人に連絡が取れるようにしたい
- ・町会長が不在の時の連絡をどのようにすれば良いか
- ・本部への連絡が繋がらなかった
- ・町内ごとに名簿があったほうが良い
- ・町内会の各戸の人数、名簿を集会所に貼っておく

2.日常からの防災への備えとは？

(1)家庭や個人でできること

- ・ 備蓄食料、防災用品の確保、確認
- ・ 備蓄品の置き場所の確認、持ち出しやすい場所へ
- ・ 携帯電話のバッテリー、水、発電機、ポータブルトイレ
- ・ 非常時に病気の有無や薬がすぐにわかるように
- ・ 備蓄品の使い方をよく知っておく
- ・ 災害時の行動を家族で話し合う、連絡方法の確認
- ・ 避難場所や避難経路を決めておく、再確認
- ・ 日頃から天気予報を確認する
- ・ 日頃から防災マップを見る
- ・ 屋内外の危険なものの確認
- ・ 防災意識の向上
- ・ 備えに対する思いはあっても、いつするのか
- ・ 地域行事への参加

(2)地域で心がけること

- ・ 町内会での備蓄品や資機材を準備したい（すぐに使えれるように）
- ・ 消防団との連携で、道や現場の確認
- ・ 要支援者、一人暮らし世帯等の情報共有
- ・ 平常時のコミュニケーション（訓練やコミュニティ活動）
- ・ 地域、若い人、隣近所とのつながり
- ・ 各個人の近状の共有
- ・ 高齢者の移動方法を考えておく（役割分担）
- ・ 外からわかるような目印があれば良い
- ・ 周囲の道、排水路の確認、管理
- ・ 山や耕地の荒廃による雨水の進路の確認

(3)行政でやってほしいこと

- ・ 防災への備えとして、各家庭に非常持出袋等防災グッズを配ってほしい

日常からの防災への備えとは？

意識的なもの

- ・防災意識の向上
- ・各個人の状況の共有
- ・特に一人暮らしの人の確認
- ・避難ルートの再確認
- ・備えに対する思いはあっても、いつするか
- ・平常時のコミュニケーション
- ・役割分担を決定しておく

物資の備え

- ・食料品や日用品等を非常持出し出来るようにしておく
- ・非常用持出セットを常備、確認しておく
- ・水、発電機、ポータブルトイレ

日常からの防災への備えとは？

家庭で出来ること

- ・災害時の行動を家族内で話し合う
- ・家族で連絡方法を確認しておく
- ・避難場所、ルートを決めておく
- ・日頃から天気予報を確認しておく
- ・日頃から防災マップを見るようにする
- ・屋内外の危険なものの有無を確認する
- ・備蓄食料を日頃から用意する
- ・普段から防災用品を備えておく
- ・防災用品を持ち出しやすいところへ置く
- ・備蓄品の使い方をよく調べておく

地域で心がけること

- ・平常時の付き合い方
- ・人間関係
- ・要支援者を気にかけておく
- ・近所の人がどこで何をしているか知っておく

行政でやってほしいこと

- ・防災への備えとして、各家庭に一つずつ防災グッズを配ってほしい

日常からの防災への備えとは？

環境

- ・周辺の道の管理
- ・排水路の確認
- ・山や耕地が荒廃しているので、雨水の進路
- ・自宅周辺の避難経路の確認
- ・高齢者の移動をどうやって行うか
考えておく

日頃からのつながり

- ・行事への参加
- ・地域のつながり
- ・若い人とのつながり
- ・平常時の訓練やコミュニティ活動
- ・隣との付き合い（連絡・安否確認）
- ・近況の共有
- ・防災意識の向上

防災備蓄品の確認

- ・非常時の薬がわかるように
- ・病気の有無
- ・非常時持ち出し袋
- ・水、防災食の備え

日常からの防災への備えとは？

家庭で出来ること

- ・食料の確保
- ・備蓄品の置き場所の確認
- ・携帯電話のバッテリー

地域で心がけること

- ・町内会へ備蓄を準備したい
- ・消防団との連携で、道や現場の確認
- ・要支援者情報等共有
- ・資機材の整備（すぐに使えるように）
- ・外からわかるような目印ができれば良い